

平成30年度 第1回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日時： 平成30年6月8日（金） 午前10時～正午

場所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 307・308研修室

出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員

西條委員、齋木委員、齋藤委員、指田委員、永田委員、福田委員

事務局（男女共同参画課）

上所課長、長谷川課長補佐、新井課長補佐、小林主査

団体（敬称略）

「AKIHA HOUSE 事務局」渡邊

「特定非営利活動法人 女のスペース・にいがた」仲村

「にいがた女性会議 男女平等教育部会」樋口

「Father “H” Family」深見

「ふとつな雑談部（「ふとうこう」でつながる親のための雑談部）」山崎

「Little Rainbow」佐藤

「わいわい夢工房 “防災カフェ”プロジェクト」大橋

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 運営委員・男女共同参画課職員紹介

4 男女共同参画市民団体協働事業審査

(1) 「Project of women's empowerment」（AKIHA HOUSE 事務局）の審査

（団体） 事業概要説明

（西條委員） 保育はつけるのか。

（団体） スタッフが見守りという形でつく。

（西條委員） ママ向けの講座はたくさんあると思うが、それらとの一番の違いは何か。

（団体） 講座を編成するにあたり軸として安心がある。個人の安心であり、社会に生きる人としての安心というところが、他の講座と全く違う分野だと思っている。

（指田委員） 終活の話とSNSでは、かなりジャンルが異色でおもしろいが、ターゲット層であるママたちが参加したいかは少し疑問で、何か他のところで要望が多かったとか、リクエストがあったのか。

（団体） SNSについては、本人たちが気付いていない状態。エンディングノートも提案することによって、欲しかったと気付く分野だと思う。30代でシングル
のママからは、法律的に何かしようとした時にすごく分断されている気がする
という話も聞いたので、そこも含めて提案できたらと思っている。

（上所課長） 保育の見守りとはどういうものか。また、施設の使用料として8,000円とあるが、市の施設を使えば市の事業なので無料になるが、なぜその施設を利用するのか。

（団体） ママたちにとって公共施設は冷たい感じがすると。子どもを連れて行って、子どもがすぐ近くにいる、何かあった時にすぐ見に行けるという距離で学べる

方法があつていいだろうと。かつ、お茶やお菓子を食べながら家のような雰囲気の中で学べるということは吸収率もよく、一緒に学んでいる人とのつながりもできる。部屋の奥に子どもたちが遊べる環境を作りながら、スタッフが1人か2人ついて見守る。いつも学んでいる延長として学べるよう AKIHA HOUSE を利用したい。

(2) 「支援者のためのスキルアップ講座」(女のスペース・にいがた)の審査

(団体) 事業概要説明

(指田委員) このような内容だと団体のメンバーだけでいっぱいになることがよくあるが、想定される対象者をしっかり集客できる手法でやるのか。また、対象は女性か。

(団体) 男女問わず、相談を受けている人たちに来ていただきたい。

(指田委員) 内容が内容なので被害を受けている女性がいた場合、男性がそばにいてもいいのかなど、その辺のケアはどうするのか。

(団体) このテーマでは恐怖で来られないという方は申し込まないと考えている。相談業務に生かしたいという方に来ていただきたい。性風俗、AV強要といった現状を知らない支援者がほとんどであり、もっと幅広い支援ができればと思っている。

(西條委員) 支援者向けであればチラシは作らず、ダイレクトに各区の相談窓口への周知で十分なのではないか。ただ、これとは別に興味のある親もいると思う。

(団体) 支援者、若年女性の父母も対象にしている。チラシを公民館などに置くことによって、市民が目にする機会を増やし、このことについて考えてもらいたい。

(3) 「新潟の学校における男女共同参画について」(にいがた女性会議 男女平等教育部会)の審査

(団体) 事業概要説明

(西條委員) 女性管理職の登用が3年間変わらないのはなぜというところが出発点だと思うが、先生ではない我々がこれを学ぶ意味がよくわからない。

(団体) 小・中学校では女性教員が多いが、主任、教頭、校長になると数が少なくなる。女性教員には、育児、介護など家庭との両立の問題がまだあり、それを緩和するには女性教員が働きやすい仕組みが必要と考えている。例えば、教頭は鍵の開け閉めが役割となると、育児や介護を抱えている女性は無理だと思う。実際に教員を経験された講師の話には、女性管理職を増やすヒントがあり、今でも講師が悩んだ30年前と同じ状況があることを私たちが知ることは大切なのではないか。

(西條委員) 当事者の先生を抜きにした勉強会をやっても、実際何が変わっていくのかがよくわからない。蚊帳の外で我々がこの勉強をすることで新潟市の管理職が増えるのか。

(団体) 講師は大学でも、学内保育や女性研究者の支援制度の策定などやっている。女性管理職が増えないのは、女性が望んでいないからと言われるが、手を挙げることにより、生活がより忙しくなることがある。私たちが現状を知ることが大切だ。

(4) 「いつまでもふたり笑顔で～パートナーシップ講座～」(Father “H” Family)の審査

- (団 体) 事業概要説明
- (齋藤委員) 3回の講座は連続講座か。2回目だけ参加することも可能か。
- (団 体) 3回受講するのが前提だが、定員に達しなければ、単独の参加も受け付ける。
- (長谷川補佐) 昨年は、会員以外の参加はどれくらいの割合だったか。
- (団 体) 会員以外は8~9割くらいだった。
- (上所課長) 課題に妻や子どもに暴力が向けられるとあるが、対象は男性か。
- (団 体) 男女不問で、既婚、未婚は問わない。パートナーシップは結婚してからよりも、未婚の段階で理解しておいたほうが、より結婚に対してモチベーションが上がりうまくいく。
- (齋木委員) 昨年も多く参加があったとのこと、どのように集客したのか。
- (団 体) アルザをとおして公民館等へのチラシの配布、Facebookの投稿、以前受講した方へのメールでの告知などにより募集した。
- (西條委員) 男性が家庭で、妻と子どもに暴力を振るいたくなる状況は、新潟市で結構あるものなのか。
- (団 体) 多いと認識している。新潟県は離婚率が非常に低い、幸福度は非常に低く、2世帯3世帯で同居している世帯も多いので、妻が我慢しなければならない。夫は親と同居していると子どものまま育ち、妻を母親と同じように扱ってしまう傾向があるので、逃げ場のない閉鎖された空間の中で苦しい思いをしている女性も多いのではないかと。
- (福田委員) DVの防止には、自尊感情を大切にすることも大事だが、他者を大切にすることも大事で、そういうことを学ぶ場も設定しているのか。
- (団 体) 児童虐待防止の講演会など主催している。いろいろな講師が、普段目にしないことを問題提起することにより、啓発意識が高まる
- (5) 「わたしも子どもも、社会も輝く為に「ふとうこう」をジェンダーと自己尊重感でひもとく講座」(ふとつな雑談部)の審査
- (団 体) 事業概要説明
- (西條委員) 対象者は市内の不登校の子どもがいる親なのか。
- (団 体) 母親と相談機関の方、研究している方や親の気持ちを一緒に理解してもらいたいので支援者も対象にした。
- (西條委員) 対象が絞られるが、どうやって告知して募集するのか。
- (団 体) 不登校の子どもの集まりの保護者、支援者への告知や、SNS、チラシの配布をしたい。
- (西條委員) プライベートなことなので、人に知られたくないという保護者もいると思うが、そういった方への配慮はあるか。
- (団 体) 講師からは、話したくない人には無理に要求しないと伝えてもらう。
- (福田委員) 学校現場とはどういうつながりを持っているか。教師は巻き込めるのか。
- (団 体) 私が所属している不登校・ひきこもり研究会には、養護教諭がたくさんいらしているので配付したい。
- (新井補佐) 自己尊重トレーニングをとおして、保護者の自己肯定感を高めるというのは理解できるが、支援者も対象となると、どういった内容になるのか。
- (団 体) 相談を受ける人は、自分の気持ちが豊かになっていないと人の相談には乗れないと思う。支援者にも自分は役に立っていないのではと悩んでいる方はいる

ので、支援とは何かを考えることが自己尊重につながる作業になる。

(6) 「女性のためのこころの Care 講座」 (Little Rainbow) の審査

(団 体) 事業概要説明

(西條委員) 重い状態の方もいると思うが、1クール12回受講して卒業できるのか。何回も通う常連の方もいるのか。

(団 体) この講座を受けたからといって、全てが解決する訳では決していない。自分の心のケアの方法を学んだり、なぜDVを受けたことにより苦しんでいるのかを理解することによって、少しずつ自分が抱えているトラウマを小さくしていくというイメージ。何回か同じテーマのものを受講する方もいる。

(西條委員) フォローの場があれば安心できると思うが、途中で挫折した人の受け皿はあるのか。

(団 体) カウンセリングを個別に受けていただいたりしている。

(上所課長) 今まで参加者の平均が3名で、予約不要というと、当日参加者が全く来ないということもありうるが、市の事業としてそれでよいのかと考える。広報はどのようにするのか。

(団 体) トラウマを抱えている方に気軽に参加してもらいたいので、予約不要にしている。当日の気分によって来られないことももちろんあり、無理をして来ていただくものではない。参加者がいなくても私たちは待機している。参加費が必要なことがハードルを高くしているのかもしれない。今回、市の事業としてできれば、無料で参加してもらえし、個人的なグループでやっていることへの不安を払拭できると思い応募した。

(西條委員) 参加費は全12回1,000円ではなく、1回1,000円なのか。

(団 体) 1回1,000円。スタッフの人件費、資料代などいろいろ経費がかかるので、そのような設定にしている。

(7) 「わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト」 (防災カフェ in にいがた) の審査

(団 体) 事業概要説明

(福田委員) 3.11のとき、女性の視点で避難所を運営することが課題になったと思うが、そういうことを形にできたことはあるか。

(団 体) 福島から自主避難されたメンバーから話を聞いて、何ができるか考え、災害グッズ作りや、避難所でもできるストレッチのワークショップをやったり、災害食をつくったりして、自分の身に置き換えられるようになった。

(西條委員) 1・2回目の受講者が、3回目は教える側になるというのは、1・2回目の参加者に声掛けをするのか。

(団 体) 必ずやってねということではプレッシャーになるので、それなら行くとなるよう、楽しくできることを防災カフェでは第一の目標にしている。

(上所課長) 事業の目的に「リーダーとなれる人材をつくる」とあるが、昨年度受講された方で、意識が変わってやってみようと前向きになった方はいたか。

(団 体) この事業以外にも、学校の先生方のグループなどに出張カフェをやっている。また3月11日の来場者に子どもの安全を考えたいという方が相談に来て、実際にこれからやろうとしている。

(審議非公開)

5 その他

(事務局) 次回の運営委員会は10月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。

(参考)

決定団体名・事業名

団体名	事業名
特定非営利活動法人 女のスペース・にいがた	支援者のためのスキルアップ講座
にいがた女性会議 男女平等教育部会	新潟の学校における男女共同参画について
Father “H” Family	いつまでもふたり笑顔で～パートナーシップ講座～
ふとつな雑談部	わたしも子どもも、社会も輝く為に「ふとうこう」 をジェンダーと自己尊重感でひもとく講座
わいわい夢工房 “防災カフェ” プロジェクト	防災カフェ in にいがた